

持続可能な地域と暮らし 地域の力と農の可能性を広げる取り組み

砂栽培の可能性

「シェアリング」、「共同研究」、「障がい者」、「地域」をテーマに農業の可能性について

概要

ATR様敷地内にあるトレファムラボは、トレファム事業の実証の場であり地域に開かれた農園として運営してきました。砂栽培は農作物を育てる作業をシェアすることで、老若男女を問わず障がいのある方も農業初心者の方も、笑顔をシェアできる農園です。トレファムはウェルビーイングの実現を目指してまいります。

特徴

- シェアリング農業の実践
農作業をシェアして、市民農園と農福連携の長所を掛け合わせる仕組みです。
- 大学や企業との共同研究
東農大・日本郵便様との連携から、高糖度トマト「さやまる」が販売されています。
- 障がい者、高齢者の就労
多数の福祉施設、高齢者施設、シルバー人材センター等でご導入されています。
- KOSUGI iHUG（神奈川県川崎市）

ファーム棟、アウトドアダイニング棟、ウエルネスリビング棟、芝生広場で構成されます。シェアリング農業を実践し、地域で人気の複合施設となっています。

今後の展開

- いろどりふあーむ（宮城県仙台市）

2024年10月にSOMPOケア（介護付きホーム）様が運営するトレファム農園が開園しました。介護付きホームにお住まいの方と、地域の方が一緒になって野菜を作り、スーパーや学校給食向けに出荷されています。

テーマ「社会課題と向き合う科学技術の最前線」との関連

- 砂栽培は農作物を育てる作業をシェアすることで、老若男女を問わず障がいのある方も農業初心者の方も、笑顔をシェアできる農園です。IoTの活用を通じて作業負担を軽減して、ウェルビーイングの実現を目指してまいります。

（支援学校の体験学習）



（フルーツマト）



（いろどりふあーむ）



（KOSUGI iHUG）



持続可能な地域と暮らし 地域の力と農の可能性を広げる取り組み

砂栽培の可能性

京田辺クロスパーク(京都府京田辺市) ～タナクロ～

概要

「農福連携をテーマに、緑と農に親しむ公園」

- ・来園者が、土や緑にふれあう体験や環境学習の出来る公園をめざして、砂栽培を行えるハウスを7棟設置しています。
- ・子どもから高齢者、障がい者など全ての市民が交流する緑の拠点づくりをめざします。



プレーパーク



タナクロ

京田辺クロスパーク
KYOTANABE CROSS PARK



公園区域
面積 約
2.2ha

- 「進化し続ける公園」「自然を生かした生物との共生を学ぶエリア」と位置づけ、子どもの自然体験を学ぶ拠点
- 最低限のルールを設け、大人のプレーリーダーが見守りながら、ツリーハウスを作ったり、焚火をしたり、泥遊びをしたり、子どもの創意工夫が最大限に発揮できる遊び場です。



グリーンハウス
1～7



- グリーンハウス内では、トレファムを用いたシェアリング農業(農業体験)をお楽しみいただけます。



芝生広場

カフェスペース(RAVIGOTE)
・京田辺市内の7つの福祉団体が構成する、
「みんなの働くプロジェクト」が運営しています。

産直市場棟



砂場

砂場遊びのメリット

- ・子どもが熱中し、独創性・達成感がある。失敗もOK！
- ・多世代がいっしょに遊べる。親も安心して見守り。



可動遊具で自由に
子どもたちが遊具を
動かして遊べます。

